

人権・平和部会

I. 研究概要

1. 研究課題

「共に生き、平和な社会を創り上げる力を育む教育はどうあるべきか」

2. 研究内容

(1) どのように平和教育を位置づけ、実践していくのか

【研究内容①】

教科における
平和教育の実践と教育課程への位置づけ

【研究内容②】

教科外における
平和教育の実践と教育課程への位置づけ

【研究内容③】

平和教育の情勢の分析と今日的な課題

(2) どのように人権・共生教育を位置づけ、実践していくのか

【研究内容④】

民族・人権・共生教育の実践と今日的な課題

- ・アイヌ民族 ・人権教育
- ・男女共同参画 ・子どもの権利条約
- ・バリアフリー ・インクルージョン
- ・ノーマライゼーション ・福祉
- ・少数民族 ・労働者の人権
- ・しょうがい者の人権 ・LGBT

3. 研究方法

(1) 交流計画

部会員個々で実践を積み、研究協議会当日は全体会でのレポート交流と分科会討議（各部会員の
実践レポートの交流）

(2) 分科会構成

管内1ブロックで研究内容に沿って分科会を構成し、研究成果の交流を行う。（会場：石狩教育研修
センター）

II. 実践研究の経過と成果

1. 実践研究の経過

(1) 部会役員研修会による研究経過

- 5月 7日 部会役員研修会
・・・今年度の方向性についての確認
- 5月21日 部会役員研修会
・・・課題部会研究協議会に向けての準備
実技研修会の計画と具体的準備
- 6月 部会情報発行
・・・課題部会研究協議会に向けて・実技研修会の案内
- 7月27日 理論研修会
・・・『江別であった戦争を考える』
講師：園部 真幸 学芸員（江別市郷土資料館 元副館長）
場所：江別市郷土資料館（江別市緑町西1丁目38）
- 8月16日 拡大役員研修会
・・・研究協議会開催について・討議の柱の確認・分科会の進め方
- 9月 4日 管内研究協議会
・・・全体会・研修会報告・レポート発表を主とした交流
部会役員研修会
・・・研究協議会の反省
- 10月11日 部会役員研修会
・・・今年度の研究のまとめと次年度に向けて

(2) 部会役員研修会での研究成果

- ・研究課題の明確化
- ・理論・実技研修会の持ち方、内容の検討
- ・研究協議会に向けての方向性の意思統一、討議の柱の確認、分科会の進め方

2. 課題部会研究協議会での交流

研究協議会では、全体会での研修会報告、分科会で個人レポートの交流を行う。実践交流のほか、情報交流、学習など幅広い内容で交流を行う。

(1) 課題部会研究協議会での協議内容

討議の柱1

どのように平和教育を位置づけ、実践していくのか

(1) 実践の紹介

- ①小学校での実践
- ・平和都市宣言に関わる取組
 - ・学芸発表会の劇を通しての学習
 - ・平和を考える全校集会の実施
 - ・戦争体験者の講話
 - ・インターネットサイトを利用
 - ・道徳の時間での取組
 - ・社会科での調べ学習を通して



- ・国語の教材を通しての平和学習
 - ・日本国憲法について考える学習
- ②中学校での実践
- ・全校道徳を活用した平和教育
 - ・新聞記事を活用しての実践
 - ・教科(国語・社会)における実践
 - ・旅行的行事での訪問・見学を通して
 - ・司書教諭との連携



(2) 討議の内容

- ①教師の考えを押しつけるのではなく様々な情報を提供した上で子どもたち自身に判断させることが大切。
- ②発達段階に応じて伝え、積み重ねていくことが大切である。
- ③様々な歴史に触れることが子どもの未来につながる。
～戦後73年、戦争を子どもたちにどのように伝えていくか。
- ④教育課程に位置付けて実践を継続していく。
- ⑤学校全体での理解ととりくみが必要。
各教科の中で位置づけを意識してとりくむことが大切。
- ⑥戦争体験者の言葉には重みがあり、子どもたちの心に響く。
- ⑦他校の実践を参考にする
～実践の資料を積み重ねる
- ⑧資料館等との連携
～講師の派遣依頼・映像資料、実物展示物の貸し出し等



討議の柱2

どのように人権・共生教育を位置づけ、実践していくか

(1) 実践の紹介

- ①小学校での実践
 - ・教科を通した人権・共生教育の学習
～男女共同参画標語作り・世界人権宣言
 - ・いじめについて考える全校集会
- ②中学校での実践
 - ・道徳における人権教育
 - ・特別支援学級での交流、体験活動について
 - ・社会科において人権問題を取り上げた取組
 - ・学校の人権意識を高める手立てについて
～社会的弱者の立場に立った学校運営・教育課程

(2) 討議の内容

- ①人権・共生について、歴史的事実を伝えながらも、現在を生きる子どもたちの発達段階を考え指導していく必要がある。
- ②人権・共生については日常様々な場面に結びついているので、教師がアンテナを張って取り上げることが重要。



Ⅲ. 講演会（理論研修会）

1. 講演会（理論研修会）の内容

(1) 目的

今日的な課題に関わる研修会を実施することにより、様々な教育課題に適切に対応できる能力の向上を図る。本研修は、「地域の戦争史実の掘り起こし」をテーマに人権教育・平和教育を実践するための視点を養うことを目的とする。

(2) 研修会テーマ 『江別であった戦争を考える』

(3) 開催期日 2017年 7月27日（金）

(4) 講師 江別市郷土資料館 元副館長 園部 真幸 学芸員

(5) 会場 江別市郷土資料館 (江別市緑町西1丁目38)

(6) 概要

①資料館見学

資料館内を園部学芸員の案内で見学した。江別の歴史がよく分かる展示が数多く残されている。中でも本研修テーマの目的である木製戦闘機「キ106」の車輪も現存していた。他にも当時の設計図資料等も復元展示されていた。

②園部真幸学芸員による講話～木製戦闘機「キ106」について～

江別で制作された木製戦闘機について当時の写真等を参考に講話をしてくださった。王子製紙の工場を利用して作られたこと、木製戦闘機のモデルが陸軍主力戦闘機2000馬力をもつ「疾風」であったことなどを教えてくださった。実際に完成したのは2機のみで、1号機は丘珠空港で飛行訓練を繰り返し最高速度時速614kmを記録、2号機は丘珠から東京の陸軍福生飛行場までの飛行に成功した。しかし、どちらも実戦で使用されることはなく終戦を迎え、1956年には解体処分されている。



2. 理論研修会の成果

19名の部会員が参加をし、「一度来てみたかった施設で大変参考になった。」「木製戦闘機のことだけでなく、写真パネルを見ながら戦時中の江別の様子も知ることができた」などとおおむね好評であった。管内にある資料館であるが、なかなか足を運ぶことは少ない施設である。木製戦闘機の機体の一部が保管されており、これは戦争を学ぶ生きた教材であるということ、また江別で起こった戦争について多くのことを知る園部学芸員と出会えたことは、今回の研修会の大きな収穫といえるであろう。身近にある施設・人材活用のための教材研究ヒントが参加者を通じて管内の小中学校に知れ渡った。

Ⅳ. 部会研究の成果と課題

1. 成果

- (1) 石教研課題部会研究協議会は教師の実践の交流・情報交換ができ、とても貴重な時間となっている。
- (2) 小中での人権・平和教育の在り方を交流できるととても貴重な機会となっている。
- (3) 私たちが正しい情報を得て学び合い、その情報を子どもたちに伝えることで、子どもたちの知識や理解が深まり、適切な判断力につながった。
- (4) 各部員の問題意識が高いため、レポートの本数が多く、内容が多様で充実している。
- (5) 講師の方のご協力により、理論研修会が充実したものとなった。
- (6) 役員研修会などを事前に開催し、部会役員と司会・記録者が話し合い、討議の内容と分科会の進め方を明確にしたり、焦点化したりすることで、活発な議論が行われた。

2. 課題

- (1) 内容がマンネリ化しないよう、子どもの実態や特性等に合わせて実践をすすめる。
- (2) 実践が単発に終わってしまうのではなく、系統立てて継続的に行う。
- (3) 多くの学校で平和教育を教育課程や道徳に位置づけたり、平和集会など全校的な活動を行ったりできるように、条件整備を進めるための手立てを共有していく。
- (4) 様々な場面で「共に生き、平和な社会を創り上げる力」を育むために、個人で実践を行うのではなく、職場内の共通理解・協働体制で実践を積み上げていく。
- (5) 私たちが色々な情報に対して知識や理解を深め、子どもたちに伝えていくことが大切である。
- (6) 平和教育においては、戦争の恐ろしさや悲しさを伝えるだけでなく、どう生きるのか批判力をどう育てるのかを観点においた実践も深めていくことが大切である。

(文責 小笠原 晴美)